令和 6 年 10 月 16 日

10 月の木材価格・需給動向

１．国産材(北関東)

栃木県では 10 月に入り、間伐・皆伐とも順調に作業は進んでいる。県西地域では 9 月の豪雨による搬出路等の復旧が遅れており、出材は少な目ある。気温が高く虫害の影響が続いており、虫害材は無入札が多く売りづらい状況であるが、虫害のない材の出材も始まった。虫害のあるスギは 3.0m柱材、4.0m中目材共に値下がり傾向だが、虫害の無い材は引き合いが強く値上がり傾向。虫害のないヒノキ材は強保合で推移。

群馬県ではスギ 4.0m材の出材が少なく集荷が困難である。製材工場ではスギ 3.0m材の原木在庫は潤沢だが、4.0m材が無い。スギ虫害材は依然として多い。工場の操業は通常の 70%程度で、首都圏・地場向けとも低調なため、十分間に合っている。在庫は全ての製品で多いが、虫害により側材で製材する製品は少ない。

２．米材

8 月の米国住宅着工数は 135.6 万戸（年率換算）で前月比 9.6%増、前年同月比では 3.9%増となった。住宅ローン金利 30 年物は下がったとはいえ 6%台で、コロナ前の倍の水準にある。米国製材品市況は製材工場の採算ラインである$400/MBF の手前の$398 で足踏み状態。多くの工場の閉鎖、減産により何とか踏み止まっている。米国、カナダとも今年の森林火災警戒期間は終了した。米国内、中国、日本の原木需要が低調であるが、伐採は順調なため原木の港頭在庫は潤沢な水準にある。米マツ IS 級並の 10 月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの$940/千 SCR で決着した模様。ランダムレングス紙発表の 15 種平均価格(10/4)は 396/MBF、9 月頭に比べ 0.5%の下落。

8 月原木入荷は 109 千㎥で前月横ばいの低水準、1～8 月累計では 1,007 千㎥（前年同期比 20.9%減)。出荷は 116 千㎥で低調、1～8 月累計では 1,051 千㎥(同 17.4%減)の大幅減となった。在庫は 158 千㎥、在庫率は 1.22 ヵ月。東京木材埠頭の 9 月製品入荷は 11 千㎥(前月比 42.1%増)、出荷は 11 千㎥(同 8.3%増)、在庫は 40 千㎥(同 2.2%減)。国内最大手製材は米マツ平角製品の一部サイズと小割製品を 9 月納品分より値下げした。

３．欧州材

第４・四半期(10～12 月積み）交渉が始まったが、国内市場の混乱により買える状況にはない。近年欧州サプライヤーは対日依存度を下げてきたが、ここまで日本の需要減を予想しておらず困惑している。産地側もインフレに苦しんでおり、値下げできる状況にはない。既に生産済みの製品は価格調整に応じざるを得ないサプライヤーもあるが、その動きは限定的である。間柱類は東京木材埠頭の在庫が一気に増え、折からの円高も重なり、市場は急速に冷え込んでいる。9 月決算もあり、極端な安値での処分売りも散見される。出回っている安値は異常値であり長くは続かないだろう。集成柱・梁は中国木材の 9 月からの値下げで市況は混乱しており、第４・四半期交渉は長期戦になる模様。東京港の 8 月入荷は 27 千㎥と前月より減少したが、出荷が 17 千㎥と極めて低調で入超となった。入荷のピークは 9 月までで 10 月以降は減ってくると予想される。8 月末在庫は 61 千㎥に膨らみ、9 月はさらに増え 65 千㎥近辺でピークになると見られる。

４．北洋材

産地では気温が下がり降雨も少ないが、伐採・搬出は低調。製材工場の原木在庫は極めて薄く、特にアカマツが少ない。中国からの引き合いは依然低調。中国の銀行のロシア向けの送金忌避問題は収束しつつある。ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調。ロシア国内向けに上級グレード品が売れている。アカマツ完成品の価格は$590/㎥が標準でシッパーは強気姿勢を崩さず、円高を根拠に値上げを唱えるが通らず。上級グレードの不足、高値張り付きにより中級グレードへの引き合いが強まっている。9 月の製品入荷（東京＋川崎）は 14.0 千㎥と増加したが、古い契約の西ロシア産 WW 間柱が大量入荷したため。野縁入荷の少ない状況に変わりはない。出荷は 10.2 千㎥と低位安定、在庫は 28.9 千㎥で 10 月も同水準が予想される。

５．合板

合板用原木の入荷は順調。近年認証材の原木調達も増えているが、認証材は入荷量がやや減少傾向にある。9 月は各合板メーカーが直需系中心に値下げに動き、一向に値上げが進まない状況が続いている。8 月の合板生産量は 19.8 万㎥。うち針葉樹構造用合板の生産量は 17.8 万㎥、出荷量は 17.2 万㎥、在庫量は 16.5 万㎥で前月より 5.9 千㎥増加。輸入合板の入荷が 7 月から 8 月にかけて増加し、一部港湾ではキャパオーバーになっている。8 月の合板輸入量は 18.0 万㎥で前月比 99.0%。輸入は減少傾向にあり年末まではそれ程増えない見込み。産地はコスト高に動いており契約は難航している。日本からのオ

ーダーは少ない状況が続いている。

６．構造用集成材（国内産）

9 月のラミナ入港量は台風の影響もあり、8 月に比べ少ない。今後需要減により契約量を絞っていく動きになる。第 2・四半期契約のラミナ価格（CIF）は€280～290/㎥程度。円高傾向にあるが、ラミナの値上がりにより仕入コストは上昇傾向にある。国内集成材メーカーの受注は前年に比べ 80～90％の水準。荷動きは全国的に停滞気味であるが、原価、運賃の上昇により市況は強含み。8 月の構造用集成材の輸入量は小断面 30,464 ㎥（前年同月比 52.0％増）、中断面 24,205 ㎥（同 11.6％増）となった。

７．木材チップ(東海)

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材(C 材)の引き合いが強く、入荷は順調である。燃料材では建廃の入荷は例年並みだが、慢性的に不足感が継続している。能登半島地震の震災廃棄物（木くず）の搬出が北陸 3 県及び近県でも行われている。一部大手製紙会社では減産・操短(80～90％)を継続中。バイオマス発電用は旺盛な消費が継続しているが､燃料状況を見ながらの運転になっている。燃料材は地区によって買入価格の値上げを実施している。チップ工場では製紙とバイオマスのバランスを見ながらの生産となっている。

８．市売問屋

9 月の荷動きも静かであった。荷動きが悪く、不足材も無いため、値上がりの感じが見られない。値を下げても売れないので我慢のしどころである。戸建て住宅が少ないので構造材の動きが悪い。スギ、ヒノキ造作材も材木店の仕事が少ないので、まとまった量が捌けない。米ツガ、スプルースの造作材の荷動きも悪く、良材は単価交渉で予算に合わず決まらない。

９．小売

首都圏の木材、建材需要は活発さが見られない。秋需を期待していたが、9 月下旬になっても期待したほど動かないとの声も聞かれる。国産材では構造材の販売に勢いがない。北関東の原木不足と虫害によりスギ柱角は品薄のようだが、引き合いは少なく焦りは全く見られない。WW 集成管柱は国産材製品の価格に引きづられて価格転嫁が進んでいない。RW 集成平角も市況の悪さから再値上げできる状況にない。今後秋需が出ても在庫が多く、厳しい販売環境が続きそうだ。造作材は前月に引き続き伸び悩んでいる。主に店舗向け国産材中心の引き合いはあるが、纏まった量にならず、売上に結びついてない。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和6年10月16日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米 材	丸 太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↘	→	↘
北洋材	製材品	→	→	→

注）北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

↑ 急増・急上昇
↗ 増加・上昇
→ 横ばい
↘ 減少・低下
↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

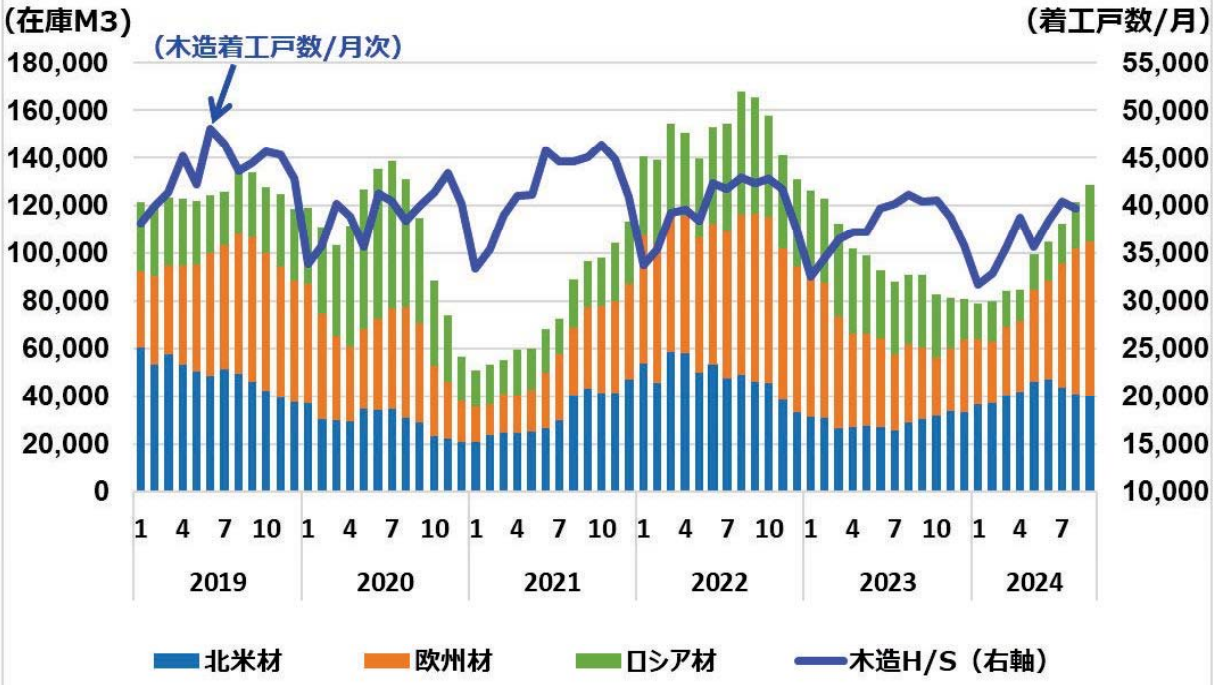
3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸 太	卸売価格（北関東、県内産 市場土場渡し）	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品（関東近県産板は東北産）	首都圏・市売り価格	スギ柱角（KD） 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角（KD） 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱（KD） 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→
			ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→
米 材	丸 太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格（京浜・ｵﾝﾄﾗ）	米マツ ISタイプ コースト	↘
	製材品（カナダ産・現地挽き）	東京・問屋店頭渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	→
	（国内挽き）		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→
欧州材	製材品	東京・問屋店頭渡し価格	ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ ﾗﾐﾅ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↘
北洋材	製材品	北陸・ｵﾝﾄﾗ	アカマツ原板(KD) 40×165 1～3等	→
		京浜・ｵﾝﾄﾗ	アカマツ（KD）30×40上級	↘
			アカマツ (KD)24×28桟木	→
構造用集成材	国内産	東京・問屋店頭渡し価格	ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ 集成柱 JAS 5ﾌﾟﾗｲ	→
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150～360×3.985	→
			スギ 無化粧 JAS 5ﾌﾟﾗｲ	→
	欧州産	〃	ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↘
			レッドウッド集成梁 JAS105×150～360×3.985	↘
合 板	国 産	東京・問屋店頭渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→

注）令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁（国内産、欧州産）、アカマツ原板を追加

参考図表１

「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移　2019～24年

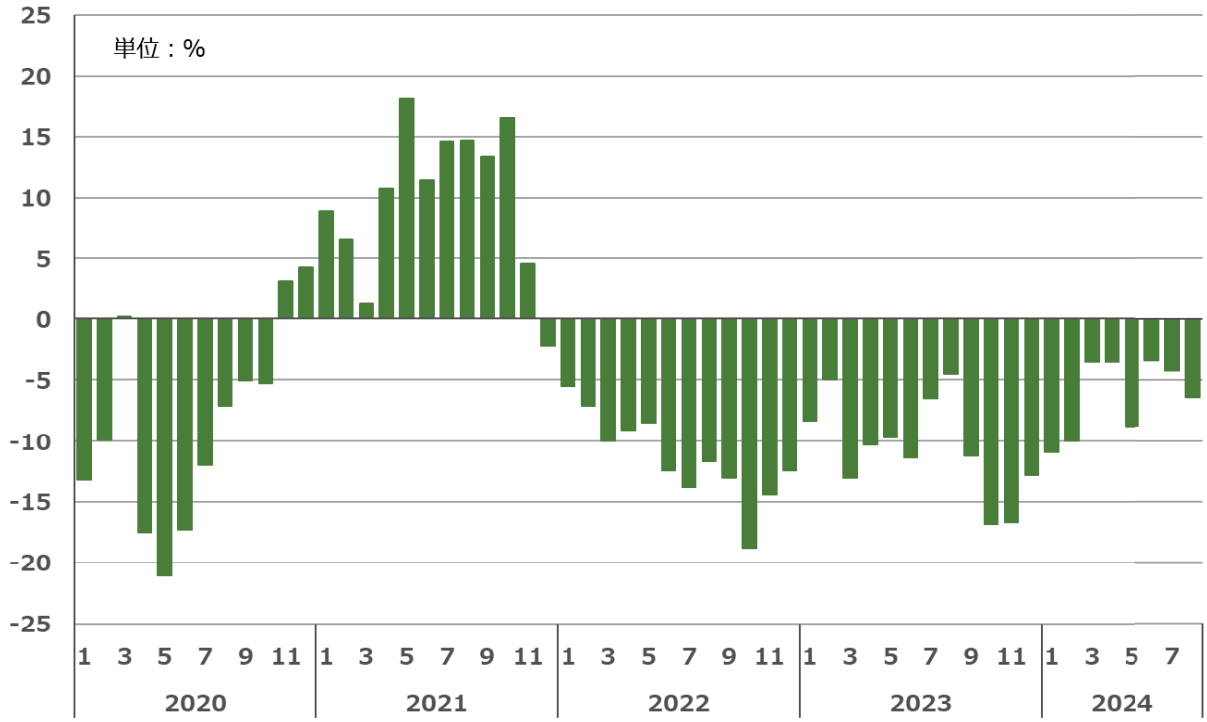


資料：日本木材輸入協会作成（データの出典：東京港在庫「東京木材埠頭（株）」、木造着工数「国土交通省（住宅着工統計）」）

参考図表２

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。

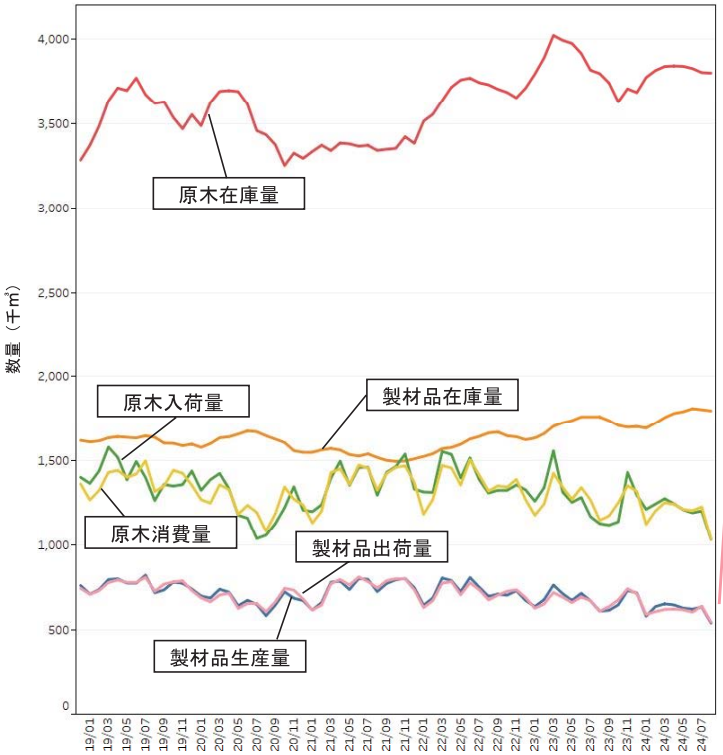


資料：国土交通省「住宅着工統計」

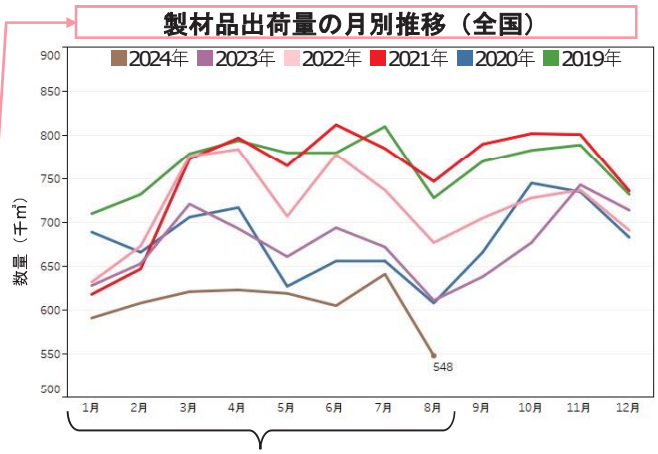
参考図表３

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向　製材（全国）

- **2024年１～８月の原木の入荷量は9,625千㎥**（2019年比84%）。
- **同様に製材品の出荷量は4,856千㎥**（2019年比79%）。



資料：農林水産省「製材統計」



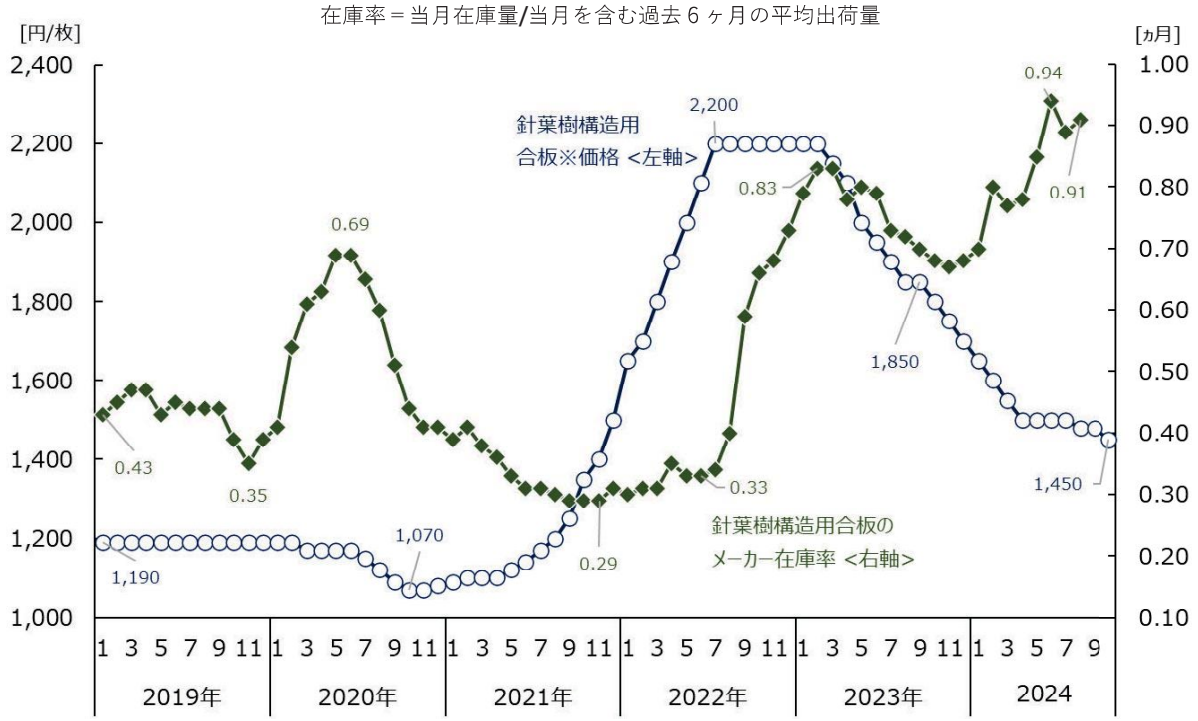
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～8月原木入荷量合計(千m3)	11,462	9,916	10,914	11,338	10,318	9,625
2019年との比較※	–	87%	95%	99%	90%	84%
1～8月製材品出荷量合計(千m3)	6,113	5,325	5,944	5,764	5,333	4,856
2019年との比較※	–	87%	97%	94%	87%	79%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

参考図表４

針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移

在庫率＝当月在庫量/当月を含む過去６ヶ月の平均出荷量

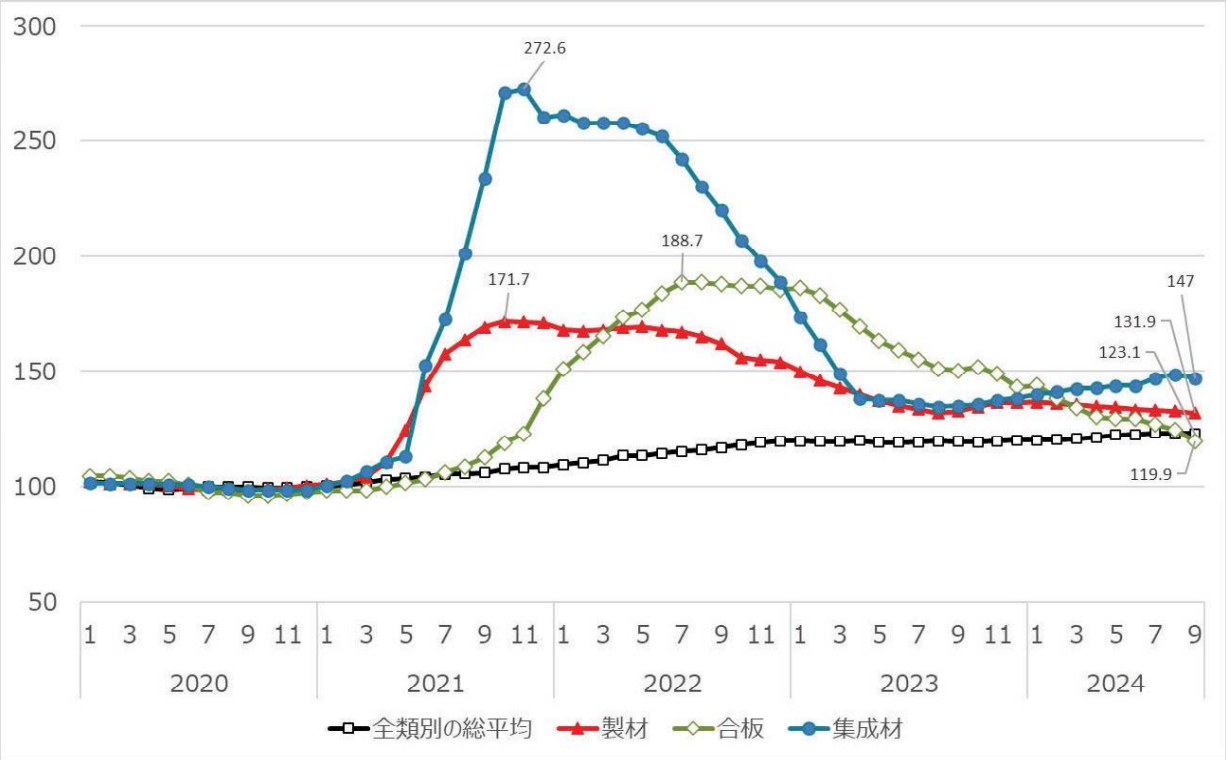


※12.0mm×91cm×182cm、1類

資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

参考図表５

国内企業物価指数の推移（2000年平均＝100）



資料：日本銀行「企業物価指数」

参考図表６

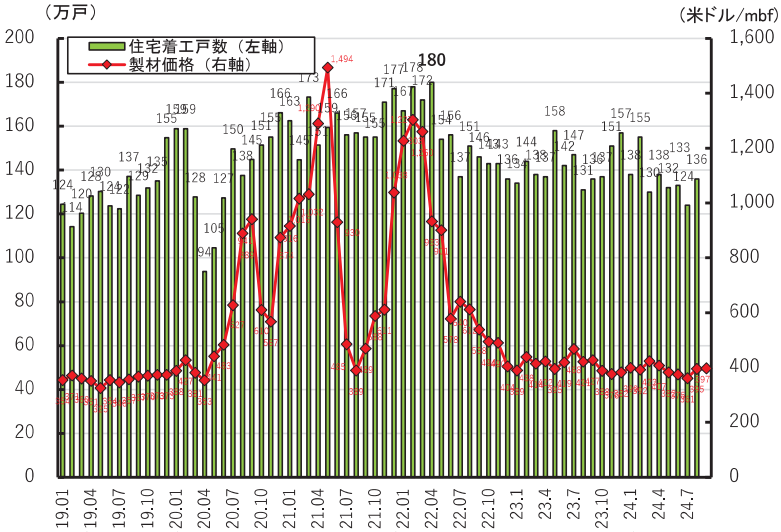
米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について（林野庁木材貿易対策室）

○　米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年４月に急落。その後回復し、2022年５月からは概ね130～150万台で推移。2024年８月は前月比＋10%増の約136万戸。

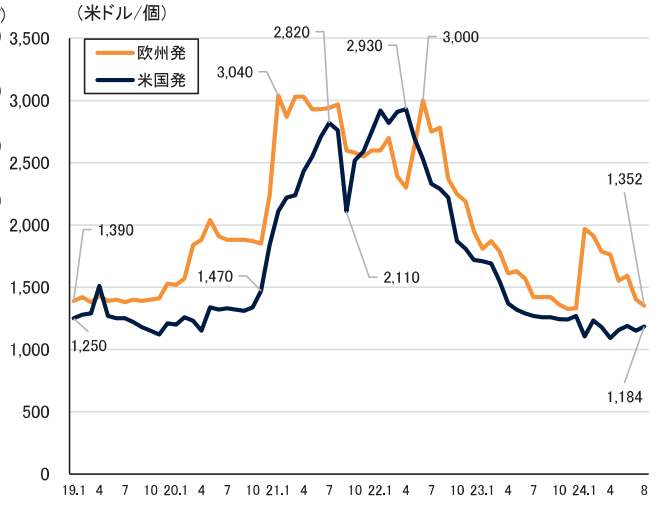
○　北米の木材価格は、2020年夏頃から大幅な変動を繰り返し、2021年５月には1,494ドル/mbf、2022年２月には1,303ドル/mbfを記録した後、2023年以降は概ね400ドル/mbf前後で推移。2024年９月は397ドル/mbf（前月比＋１%増）。

○　日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰したものの、2023年末時点で概ね元の水準まで下落。しかしながら、2024年１月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発が一時高騰。



資料：（住宅着工戸数）米国商務省「住宅着工統計」（季節調整済み、年率換算、戸建て計）
（製材価格）Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」（月末価格、2022年６月以降は月中価格）

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移



（注）　40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜着。
（出典）Drewry 「Container Freight Rate Insight」
資料：　日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

日本向けコンテナ運賃の推移